各界の著名人、郷土で語る

ふるさとの人とまち講座　中央公民館

各界で活躍中の白根市出身者を講師に招いて行われる「ふるさとの人とまち講座」が、九月二十九日からスタートしました。これは、ふるさとの思い出と専門分野を語ってもらおうと中央公民館が主催したもの。十一月九日までの七回にわたって行われます。同講座は、募集から一週間で定員に達するほどの好評ぶりでした。

各講師が講義するのは、情報社会や医療などさまざまな専門分野。第一回には、衆議院通信委員会調査室長の丸山一敏さんを講師に迎え、「郵政行政の現状とトピックス」と題して講義が行われました。「郵便事業の民営化は可能か」や最近話題のマルチメディアなどについて話したほか、長生きの秘けつなどについてユーモアたっぷりに講義。最後にふるさとの思い出として「良い先生たちに恵まれました」と話し、その場にいた数人の恩師たちも懐かしそうに耳を傾けていました。

ふるさとを思う気持ちを歌に

小林幸栄さん（真木新田）

「ふるさとの良さやありがたさ、素晴らしさを孫たちにも伝えていきたい」と真木新田の歌が誕生しました。歌を作詞したのは、小林幸栄さん(真木新田)。「ふるさと」というタイトルの歌の中には、四季が盛り込まれ、家族のきずなや村祭りなどが歌われています。

小林さんは、二年前に手作りのふるさとカルタを作製。「カルタを手掛けながら、歌をつくることをひらめいた」ときっかけを話します。歌は、小林さんの作詞に、知人の知り合いの作曲家佐田みさきさんが演歌調の曲をつけ、詩を補って今年一月に出来上がりました。曲を吹き込んだテープには、同じ地区に住む渡辺ハルエさんのナレーションが入っています。

「たくさんの人の力添えとご厚意で歌が完成しました。真木のふるさとソングになれば」と小林さん。時代は流れても変わらない「ふるさとの空と人の情をこよなく愛する心」は、歌に乗って次代へ伝えられていくことでしょう。

好評、ニュースポーツ

カルチャーセンター　スポーツふれあいデー

カルチャーセンターでは、十月十日を市民スポーツふれあいデーとし、センターを無料開放。体育指導員の指導でニュースポーツ講習会なども行われました。

屋外では、愛好者が急増中のターゲットバードゴルフやグラウンドゴルフなどを体育指導員らが紹介。木陰や起伏のあるコースのターゲットバードゴルフでは、参加者たちが夢中になってプレーしていました。また、屋内ではソフトバレーのほかインディアカなどが紹介されました。どのスポーツも手軽で、やってみると、とてもおもしろいものばかり。さわやかな秋晴れの一日、親子連れや子供たちがいい汗を流していました。

やっぱり1番、白根のお米

上道潟　親子もちつき大会

十月十五日、上道潟の諏訪神社境内で、上・下道潟、沖新保の三地区の人たち約八十人が参加して「ふるさと再発見・親子もちつき大会」が行われました。

これは「子供たちとの触れ合いを通して、よりよい集落づくりを」と農業改良普及センターが進めている事業に、上道潟地区が取り組んで行われたもの。地元米を使ったもちつき大会や魚沼産と地元コシヒカリを食べ比べるクイズなどが行われ、子供からお年寄りまでが地域の良さを再発見した一日でした。

骨をテーマに健康チェック

しろね健康展'95

市民の健康づくりのためにと、保健課が毎年開催している健康展。今年は「丈夫な骨でいきいきライフ」と題して十月一日、保健センターで行われ、約百三十人の市民でにぎわいました。

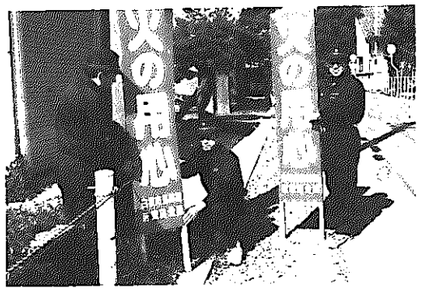
今年のテーマは骨。「骨粗しょう症検診」では、三十～七十代の女性がレントゲンなどを使って骨密度のチェックを行いました。カルシウム不足と言われる現代、この催しにはたくさんの申し込みがあり、関心の高さをうかがわせていました。

「骨と運動コーナー」では、握力、反射神経などを測定。中には前屈で、孫よりも良い結果を出すお婆ちゃんも。参加者は「楽しく運動できました」と口々に話していました。これらの結果はコンピュータに入力後、参加者に配布され、それぞれ保健婦の指導を受けていました。

このほか、乳製品を使った料理を試食したり、健康ビデオを見たり。楽しく健康チェックをした秋の日でした。

「火を出さない」、住民に啓発

新飯田分団「火の用心」看板製作



白根地区消防団新飯田分団では、今月の九日から始まる秋期火災予防運動に備えて「火の用心看板」を作製。町のあちこちに立て掛け、火を出さないよう住民に啓発しました。

五日間かかって作り上げた看板は、なんと百枚。団員らが協力し合い、夜遅くまで作業を続けながら仕上げたものです。およそ二メートルの看板は電柱などに据え付けられ、「火の用心」と道行く人に呼び掛けています。

「団員や団のOB、市の協力を得ながら、何とか手作りで仕上げることができました」と苦労を語る山田泰介新飯田分団長。「消防団の仕事は火を消すことはもちろんですが、まず火を出さないこと。それを住民に呼び掛けることも私たちの大切な役割」と語ります。「設置した看板は運動期間が終われば撤去し、そして来年あらためて設置します。手間ですがその繰り返しが目を引くと思うんです」と意欲いっぱいです。

冬を間近に控え、そろそろ本格的に暖房器具を使う時期。団員たちが汗水流して作った赤い看板は、地区の火災予防に大きく貢献しそうです。

釣りを楽しむためには…

コイの稚魚放流　信濃川漁協白根支部

十月三日、中ノ口川の戸頭頭首工近くで、コイの稚魚約二百八十キロが放流されました。これは信濃川漁協組合白根支部が水産資源保護のため、毎年行っているものです。

あいにくの雨の中、待ち続けた組合員に大型トラックで届いたコイたち。早速網にすくわれ、カゴに移され検量が行われ、休む間もなく次々と中ノ口川へ。

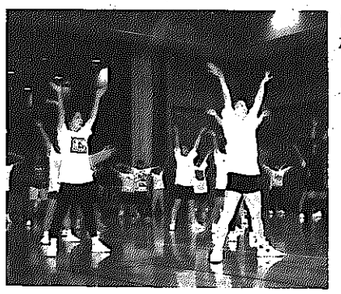
気軽に釣り糸を垂れる楽しみも、魚を放流したり、川や水辺を汚さない、そんな努力があればこそのものです。

リズムに乗ってリフレッシュ

カルチャーセンター　エアロビクス教室

カルチャーセンターが、市民の健康づくりにと毎年行っているエアロビクス教室。今年は、九月二十八日から十月二十六日までの毎週木曜日、市民六十人余りが参加し、六回にわたって行われました。

今回は、初めての人も多く、十代から四十代までと幅広い年齢層が参加。最初は、入念なウオームアップからはじまり、次第にテンポの速い動きが加わります。ビートのきいた音楽に乗せて、約一時間三十分、汗を流しました。初めて参加したというある女性は「体を動かして汗を流すのは、とても楽しいですね」と生き生きと話してくれました。



●身近な情報をお寄せください（企画財政課広報広聴係☎373・2111）